2023 サムライフェス 報告書

国際交流学科グローバル社会コース　4 年

聖心女子大学の災害復興支援活動「USH ひとづくり・まちづくり in 南相馬」の一環として、現地視察ツアーへの参加及びサムライフェスの運営に携わりました。

現地視察ツアーでは、双葉郡の富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、そして南相馬市を被災地の現状と復興の取り組みを学ぶために案内していただきました。今年は、富岡町にある東京電力廃炉資料館の視察から始まり、夜の森の桜並木、東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構 浪江町立請戸小学校などを様々な場所を訪れました。一貫して、東日本大震災と原発事故の爪痕を再認識する機会となりました。特に、道中のもともと帰還困難区域だった場所を通る際に感じた「きれいなのに誰もいない」寂しさが印象的でした。

しかし一方で、再建の兆しを鑑みることができました。例えば、双葉町では人がいなくなってしまった建物を活用したウォールアート（FUTABA Art District）を見ることができました。アーティストが壁画やインスタレーションを制作し、廃墟化した街に芸術の息吹を吹き込んでいます。また、岐阜県の繊維会社「浅野撚糸」 が双葉町に新たな工場とショップをオープンさせ、産業復興や雇用創出に貢献することを目指していることも知ることができました。

最後に、カリタス南相馬に訪れ、南原所長より被災当初の様子と現在の福島現状を解説していただき、被災地の人口減少や高齢化、除染や廃炉作業の進捗、風評被害や健康不安などの課題を取り上げ一日の総括をしていただきました。

続けて、今年のサムライフェスですが、晴天の中開催され、大盛況に終わりました。
私たち聖心女子大学の学生は、前日の準備から参加し、地元の高校生が主導する中共に出し物の準備や会場の設営等を手伝いました。また、今年は交流会を開いてくださり、地元の高校生と他の大学生ボランティア団体と気さくに話し合える時間が設けられました。地元の高校生からは、進路相談や大学生活の様子についてよく聞かれ、私たちからは地元への思いや現在の高校生活について伺うことができました。

サムライフェス当日は、主に参加者の受付・案内等の業務を担当し、訪れる地元住民とも交流ができました。また、海外からの参加者もおり英語を活用する場面もありました。そして、私たちも参加者として伝統芸能を楽しんだり、屋台を巡ったりしました。更に、4 年生と引率の上石先生は、サムライフェスの醍醐味である合戦にも参加しました。

今回の現地視察ツアーとサムライフェスへの参加は、私たちにとって貴重な経験となりました。被災地の現状と復興の取り組みを目の当たりにし、地元の人々と交流することで、福島に対する理解や思い入れが深まりました。また、地元の高校生や他の大学生ボランティア団体と協力してイベントを成功させることで、チームワークやコミュニケーション能力も向上しました。私たちは、この活動を通して得た学びや感動を忘れずに、今後も福島と関わり続けていきたいと思います。